

新しい学問と政治

No.143 A面の表と併せて読むように。

No.143 B面で見たとおり、19世紀は自然科学で様々な法則が発見された。このことは、人文科学にも大きな影響を与えた。以下の3点に分けて述べる。

- I 社会を考察する時に、科学的な方法を用いたり、法則性を追求したりする傾向が強まった。
- 1) 古典派経済学者の【1: 】 Malthus 英 1766-1834 は主著『人口論』で、食糧生産は算術級数的にしか増大しないが人口は幾何級数的に増加するので、貧困化は不可避であると指摘した。
- 2) 実証主義哲学のオーギュスト=【2: 】 Auguste Comte 仏 1798-1857 は「**社会学の祖**」《頻出》とされる。コントが確立した社会学は、歴史、心理学及び経済学を含む、人類の活動に関する学際的な研究分野で、社会現象を観察、理論化を試みる。コントの思想は、その師であるサン=シモンに遡り、コントの方法はジョン=スチュアート=ミル、ハーバート=スペンサー、カール=マルクスなどに受け継がれた。
- 3) 経済と法の分野でも、発展法則を歴史的に解明しようとする【3: 】が、ドイツを中心に形成された。歴史学派法学、歴史学派経済学が19世紀はじめのドイツで成立した。
- II 19世紀も後半になると、人文科学の分野でも自然科学的指向はますます強まる。
- 1) 【4: 】が『【5: 】』（1859）の中で示した【6: 】は宗教観、社会観に本質的な影響を及ぼした。【6】に基づくと称して様々な非科学的主張が行われ、一時期力を得たが、現在では全く認められていない。
- ①『古代社会』（1877）の著者モーガン Morgan 米 1818-1881 は、「黒人やインディアンは、白人よりも遅れた劣等民族である」として人種を等級づけた。
- ② H. スペンサー=Spencer 英 1820-1903 の「【7: 】（社会ダーウィニズム）」は発表時は自由主義的なものだったが、後に変質し、進化論を人類社会に当てはめ、社会的弱者や劣等と見なされた民族や「人種」は進化が遅れ劣勢に置かれたのだから、迫害されてもやむを得ないと決めつけた。
こうしたとんでもない「理論」があたり前のように語られ、帝国主義国による侵略や植民地化を正当化する論拠になった。また「人種理論」や「優生学」と結びつけられ、反ユダヤ主義や黄禍論（こうかるん）の根拠とされた。これらは、現代では全く支持されていない。
- ナチスが「人種政策」を国家政策の基本に置いていたことは悪名高い。
今日では、「人種」という概念自体が研究者の間では全く支持されていない。現生人類（ホモ=サピエンス=サピエンス）は一族一種であり、生息域が全地球に広まるにつれて環境に適応して若干の形質の差が生じただけである。
第二次産業革命期のアメリカの実業家たちは、なんと「ダーウィンの」世界観を歓迎し、カーネギーは古生物学の研究に資金提供を行い、ロックフェラー財団は「優生学」や社会進化論の研究を行っていた。 2010W
- 2) 厳密な史料批判による実証的・科学的叙述を行う近代歴史学は【8: 】 Ranke 独 1795-1886 に始まるとされる。主著『世界史』。マルクスとエンゲルスによる【9: 】も歴史学に貢献した。
- III 植民地を必須とする帝国主義政策は探検を必要とした。
- 1) 熱帯降雨林での行動に適さない白人探検家にとって、キナの木の樹皮から抽出されるキニーネの薬効（南米インディオの常備薬）は朗報だった。キニーネはマラリア原虫に特異的に毒性を示すため、マラリアの特効薬としてヨーロッパ列強によるアフリカ進出を助けた。帝国主義時代から第二次世界大戦頃までは極めて重要な位置づけにあった。その後、キニーネの構造を元にクロロキンやメフロキンなどの人工的な抗マラリア薬が開発され、副作用が強いキニーネそのものは代替されてあまり用いられなくなっていった。
- 2) 地理学は、未知の土地への探検で発展したが、各国の植民地支配の拡大に寄与する場合もあった。
19世紀の探検家はこの2人を押さえること《頻出》。
【10: 】 Livingstone 英 1813-73 ヴィクトリア瀑布発見者。ナイル川水源探査中行方不明。
【11: 】 Stanley 米 1841-1904 2度もコンゴ探検、スーダン探検。リヴィングストンを「救出」。
→ **ベルリン会議** 1884-85で「先占権」を確認、アフリカ分割に拍車！
ディズニー・シーの「センター・オブ・ジ・アース」とインディージョーンズ・アドベンチャー「クリスタル・スカルの魔宮」の順番待ち通路のディスプレイに探検家の前線基地のようなセットがある。ディズニー・ランドの「ジャングル・クルーズ」にも探検用グッズが置かれ、いかにも秘境探検という雰囲気を出している。行ったら見てみよう。
- 3) 19世紀末には学術調査を目的とする探検も始まった。
ヘディン Hedín スウェーデン 1865-1952 1893年以降4回中央アジアを探検。楼蘭発見。ロプノール湖の周期的移動を確認。
スタイン Stein 英 1862-1943 1900～16年、3次にわたり中央アジアを探検。敦煌などを調査。
大谷光瑞 日 1876-1948 1902～14年、インドを中心に仏跡の発掘調査にあたる。
- 4) 20世紀には、ついに極地探検が行われるようになった。
ピアリ Peary 米 1856-1920 1909年、北極点到達
アムンゼン Amundsen ノルウェー 1872-1928 スコットと競争で南極点目指す。1911年、南極点到達。
スコット Scott 英 1868-1912 アムンゼンより1ヶ月遅れて南極点に到達したが、帰路遭難死。
- 5) 世界各地の情報がヨーロッパ・アメリカにもたらされるようになったが、当時はヨーロッパ・アメリカだけが、近代化を達成した「文明世界」とする傾向が一般的で、探検によって得た知見の中にも、非ヨーロッパの民族を劣等視する見方が多く含まれていた。

哲学の新しい波

以上のような人文科学の自然科学的指向とは別に、哲学の新しい波が生じ、20世紀の思想に大きな影響を与えた深い洞察

は、現代にも大きな影響力を持つ。

- 1) 【12: 】 Nietzsche 独1844-1900 ヨーロッパ文化の退廃はキリスト教支配によるとし、「神は死んだ」と叫んで新しい価値の樹立を主張した。理想的価値を失って「永劫回帰」(円環運動)する世界において、いかにして生を肯定できるのかと問題を立てたニーチェは、自己の力(可能性)への意志によって肯定されるとし、自己のうちに価値の基準を確立している「超人」であるべきだと説いた。死後、反ユダヤ主義者と結婚していた妹が遺稿を恣意的に編集して『権力への意志』と題して発行したこともあってニーチェの思想はナチズムに大いに利用されることになった。
- 2) 【13: 】 Freud 奥 ユダヤ系 1856-1939
精神分析学を創始。心理現象を性欲と自我との葛藤とする。
その理論は心理学、人文・社会科学に大きな影響を与えた。

大衆社会の到来

- 1) 19世紀後半、印刷術が飛躍的に発展。カラー印刷も実用化。大量印刷が可能になった。これによりヨーロッパ・アメリカでは、次のようなことがおきた
- ①安価な大衆向け【14: 】が発行され、人類史上最初の【15: 】となった。
 - ②【16: 】の義務化が進むなかで、教科書の大量生産が可能となり、識字率も向上。
 - ③1920年代【17: 】が出現し世論操作も可能になった。真っ先に活用したのはナチス。これは20世紀である。
- 2) 19世紀における余暇利用の多様化、スポーツの国際化
- ①トーマス・クック Thomas Cook 英1808-92 は近代的旅行業を始める。ニュージーランド探検のクック 1728-79 は18世紀の人物で別人である。No.115に詳述。
 - ②登山のスポーツ化 マッターホルン初登頂は1865年。山の時代の開幕は19世紀。
ちなみに、最初の近代的登山はルネサンス期にさかのぼる。たぶん他にもやった人はいるだろうが、人文主義の先駆けの一人でラテン語、ギリシア語の古典研究者ペトルルカ 1304~74 が、はじめて近代的な登山をしたとされる。それ以前は、登山は薬草採取、羊、山羊などの家畜の放牧、信仰登山など特定の目的以外ではすべきものではなかった。しかし彼は、弟を連れて、ただ登りたいから登った。広々とした景色を見たいと思ったらしい。
「なぜ登るのか?そこに山(未踏峰)があるからだ。」で有名なジョージ=マロリーは20世紀の人。1924年、チョモランマ(エベレスト)山頂直下(当時未登頂)で行方不明。遺体発見は75年後の1999年、北斜面海拔8160m付近。登山の教科書通りの正しい「滑落防止の姿勢」を取り、足首は甚だしく骨折。万年雪に覆われていたため筋肉と皮膚の一部が残り遺体は原型をとどめていた。山頂に置いてくると言っていた妻の写真を持していなかったことから、初登頂はヒラリー卿とテンジン(1953)とされるが、実はマロリーだったのかもしれない。遺体発見は、近年の地球温暖化による万年雪ラインの後退もあった。
 - ③スポーツの国際化すすむ
サッカーの国際ルール制定(1860)、ウィンブルドンでテニス大会開催(1877)。
近代オリンピック大会は、1896年、【18: 】 Coubertin 仏 1863-1937 によって始められた。《頻出》

2008 駒澤大学

次の文章の□に入る最も適当な語句を以下の語群から選び、その記号をマークせよ。

19世紀前半のヨーロッパでは、個性や民族を重視する□1文化がドイツを中心として開花した。文学では『青花』を代表作とするドイツの詩人□2や『レ=ミゼラブル』で知られたフランスの□3などがおり、絵画ではフランスの□4、音楽ではオーストリアの□5がその代表である。

その後、19世紀半ばになると、市民社会の成熟や科学技術の発展を背景として、科学主義が隆盛を極め、18世紀の合理主義の時代に確立した自然科学がめざましい進歩をとげた。物理学では□6の法則の発見や□7によるラジウムの発見、有機化学の発達、生物学における□8による遺伝の法則の発見など、重要な発見が数多くなされた。また、19世紀にはこのような自然科学の発展が実際の社会生活に応用された。つまり、電信、電話、電灯の発明をはじめとして、□9によるダイナマイトの発明など、さまざまな分野で技術革新が進み、特に重化学工業分野で第2次産業革命と呼ぶべき発展がなされた。

このような科学主義の傾向は当然、人文・社会科学にも影響を与え、人間の社会のなかにも科学的な法則性を発見しようとする動きが起こった。たとえば、実証主義の創始者であるフランスのコントの流れを引くイギリスの□10は社会進化論を唱え、□11は唯物論を唱えて資本主義社会の経済法則を明らかにしようとした。芸術の分野でも科学主義の影響は顕著で、□12の非現実的な傾向に変わり、現実を直視する写実主義や現実を実験科学的にとらえようとする自然主義がおこった。写実主義の文学は、フランスではスタンダールの『赤と黒』、フロベールの『ボヴァリー夫人』、イギリスではディケンズの『二都物語』、ロシアでは□12の『罪と罰』などが知られている。自然主義文学では、フランスではゾラの『居酒屋』、モーパッサンの『女の一生』、北欧では□13の『人形の家』などがある。自然主義絵画の代表はフランスの□14やコロアがあげられる。その後、自然主義や写実主義の日常生活に目を向けたリアリズムに、洗練された色彩感覚が加わり、□15が誕生した。

【語群】

- | | | | |
|---------------|-------------|-------------|----------------|
| あ. ノヴァーリス | い. ドストエフスキー | う. 万有引力 | え. ベンサム |
| お. ダーウィン | か. シューベルト | き. キュリー夫妻 | く. メンデル |
| け. アングル | こ. イプセン | さ. シャトーブリアン | し. 啓蒙思想 |
| す. 立体派(キュビズム) | せ. ディーゼル | そ. バルザック | た. ロマン主義 |
| ち. ユーゴー | つ. ミレー | て. マルクス | と. トウルゲーネフ |
| な. ハイネ | に. ドラクロワ | ぬ. ストリンドベリ | ね. モーツァルト |
| の. エネルギー保存 | は. ノーベル | ひ. ベル | ふ. ダヴィド |
| へ. 印象派 | ほ. レントゲン | ま. ニーチェ | み. ハーバート=スペンサー |

正解 1:た2:あ3:ち4:に5:か6:の7:き8:<9:は10:み11:て12:い13:こ14:つ15:へ